

ことから、本県の最高より高い階級に属する学校が社会では15.8%，理科では20.2%で小学校のように上位への進出が見られない。

ここでも先の個人単位の成績の場合と同様に小学校は全国のトップクラスに近づいているが、中学校はこれがない。そこで小学校には低い階級に位置している学校を、より高い階級に逐次上げていくことが望まれ、中学校に対してはこの小さな学校差を維持しつつ、全体の成績を高めるようにすることが望まれる。

なお本県標本についての調査結果は報告書として配布してあるので、問題のねらい、小問正答率等参照されたい。

#### D 高等学校入学志願者選抜学力検査結果

##### a, 調査の目的

高等学校入学志願者選抜学力検査結果の調査目的は、選抜学力検査をより妥当な、より信頼のおけるものに導くためのものである。これに付帯した目的として、その折々の課題を取り上げてその解答を求めてきた。

本年度は高等学校入学志願者選抜学力検査が、昭和35年度以前の卒業で受験した者一浪人組にどのように働きかけたか。すなわち、本年度の学力検査問題は浪人に對して、有利な問題であったか、又浪人組はどのような学力の分野が現役に比し、より高まっていたかを見極めることを副次の目的とした。

##### b, 進学状況

過去 5個年間の通常課程への進学状況を学校基本調査についてみることにする。

基本調査での各高等学校への志願者の中学校の卒業者に対する百分比—志願率—は 1表のごとくであるが、これはその年度の卒業者の何%か、高等学校を志願したかという、正しい意味での志願率を表わすものではない。

1表 基本調査に表われた志願率

年 度	31	32	33	34	35
進学率	40.8	42.1	47.3	47.7	49.5

すなわち 各高等学校の志願者を集計した者の中には、浪人、他県よりの志願、重複出願などが含まれているがためである。

そこでより 実状に即した志願率を “卒業後の状況調査”についてみると 2表のごとく年々その志願率が上昇している。

2表 卒業後の状況調査に表われた志願率

年 度	31	32	33	34
志願率	37.9	38.9	42.5	44.3

志願率は前述せるごとく高まりつつあるが、進学の困難度を示す入学率は、全体的に一定の傾向はみられないが、31年度以来低下しつつあったものが、34年度で稍向上きを示し、35年度で急激な上昇を示していることが 3表によってうかがわれる。

3表 公立、私立への進学率

年 度	31	32	33	34	35
公 立	74.1	73.3	72.1	72.9	77.6
私 立	54.8	46.8	45.4	43.1	46.5

##### c, 昭和35年度の進学状況

35年度高等学校入学志願者選抜学力検査結果の調査では、県立高等学校の通常課程に志願し、選抜学力検査を受けたものは35年3月の卒業者—いわゆる現役—で19,040人、浪人の1,095人で計20,135人である。

浪人の全受験者に対する百分比は 5.4%であるが、これを個々の学校についてみると 4表のごとく18%以上の学校もみられる。

4表 学校・部別の浪人の受験者中に占める百分比

百分比	0	0~	2~	4~	6~	8~	10~	12~	14~	16~	18~	計
学校数	3	9	17	15	14	3	3	2	1	0	1	68

合格者は、現役組が16,168人、浪人組が 772人の計16,940人で浪人組が合格者に占める比率は 4.6%となる。これは先の浪人が志願者中に占める比率より低い。これ

を各学校について現役で合格した者の現役全体に対する百分比と浪人のそれを示せば 5表のごとくである。

5表 現役、浪人ごとの学校・部別合格率

項目	合格率	~52	53~	55~	60~	65~	70~	75~	80~	85~	90~	95~	100	計
現 役	0	1	1	0	2	4	5	11	8	10	16	10	68	
浪 人	10	1	1	3	4	6	8	8	1	3	—	20	65	

##### d, 35年度の卒業者とそれ以前の卒業者との成績の比較

選抜のための学力検査は中学校の正常な学習を歪めないように、むしろ学習指導のあり方を示唆するようなも

のであるべきだ。特別な準備教育を必要としないような学力検査問題でなければならない。と言われるが又実際にもそのような努力が払われつつある。